

組合の閉所日 ご迷惑おかけします
11月4日(火) 書記局会議

支部ホームページ
群会議の話題・あしば・すずらんの閲覧
ユーザ名→何も入力せず(空白)
パスワードは、発行所(右)下を参照



第551号

発行所
東京土建一般労働組合
小金井国分寺支部
国分寺市東恋ヶ窪 2-36-32
電話 042-324-5940
発行責任者
中川和美
パスワード doken5940

秋の仲間づくり月間目標一覧
2025.10.6現在

分会	目標	成果	残
国①	4	0	4
国②	2	0	2
国③	3	2	1
国④	3	2	1
国西	2	0	2
小①	3	1	2
前原	5	4	1
小西	2	0	2
東小	3	2	1
直属事業所	16	16	
合計	43	27	16



いいネ!
東京土建

動画を真剣に見る仲間 支部・分会良くする方向性に確信

東京土建はいい組合
確信もって仲間増やしを

「仲間を増やそう! 2025年秋の仲間増やし活動者会議」を9月11日(木)に国分寺本多公民館ホールで開催しました。

冒頭の南委員長あいさつの後、小金井国分寺支部の「支部と分会を良くするため」にみんなで意見を出し合う会議(通称「よくだし会」)のとりくみを紹介する本部動画の上映を行ない、支部・分会の方向性に確信を持ちました。続いて、9月の分会執行委員会に向け、群長が説明しやすいように群会議の話題を使ったミニ学習を行ないました。さらに土建国保の制度や労災、最近話題再燃の「消費税は預かり金ではない」の学習を行いました。

2025.9.18
月間2号
9月18日(木)
国分寺支部

秋の拡大かわら版

即席劇団員が寸劇披露
『いりじゃん組合』の声も

【今後の行動】9月25日(木) この日は推進委員会も 20時30分～分会組織又は分会長



いい笑顔 左から橋本組織部長、作江さん、南委員長、片桐書記

続いて、各分会の組織部長(アクター)によるショートショート寸劇。NG訪問編、労災編、国保編として、リアルな訪問の様子を演じてくれました。

この後、橋本組織部長より群会議の話題を使って秋の仲間づくり月間の意義、行動の重点、仲間増やし月

参加者は36人でした。

対話型の組合員訪問旺盛に

前原町

9月18日(木)夜間、前原町分会は10月26日(日)に小金井公園で行なうBBQ交流

会に参加してもらおうと、南委員長、橋本組織部長、片桐書記で子育て世代の組合員宅を訪問しました。

この間、いちご狩りなどの催しに参加してくれている作江さん宅を訪ねたところ、仕事帰りの本人に遭遇。橋本組織部長から「今、賃上げのチャンスだよ」の説明に、作江さんから「どうやって賃上げするの? 職人の単価っていくらぐらいなの?」と対話が弾み、「数は力だから仲間紹介してね」、「家族でBBQ来てね」と誘いました。17年前「無謀」と言われ始めた建設アスベスト裁判は、国に謝罪させ、建材メーカーと和解が成立しました。仲間が増え、力を合わせれば、要求は実現できる。確信持ち仲間を増やしましょう。

『秋の活動者会議』ダイジェスト
仲間増やし成功に向け意思統一

朝顔

▼スウェーデンのヘビメタルといえば、宗教的な内容が背景にある曲が多い中、ヘビメタルバンドの「ザバトン」が、母国スウェーデン教育機関の団体より「フォーク・エデュケーター・オブ・ザ・イヤー」国民啓発賞に選ばれた。近代戦争をテーマに楽曲作りをし、歴史の重要性を伝える活動が評価された▼他方、今日の我々が認識するような意味での「政治的なパンク・ロック」の元祖「ザ・クラッシュ」失業や搾取、帝国主義的政策への批判など、社会問題も大から小まで積極的に歌のテーマとし、政治的「な歌詞を連発した。具体的、直接的に社会問題に關与していく積極性も、後続世代の模範となった。「パンクっていうのは、音楽のジャンルのことじゃない。今を生きる、その生き方そのままだ」パンクなんだ(ミック・ジョーンズ)▼一部の支配階級によって弱者が搾取され続けるアメリカ社会のシステムと歴史に対し、不屈の抗議を挙げるのが「レイジ・アゲインスト・ザ・マシーン」。「世界中の政府が必死に働きかけ、頼みの綱にしているのが一般大衆の無関心なんだ。俺たちはひっくり返そうとしているのさ。」(ザック・デ・ラ・ロッチャ)▼楽曲の創作や表現方法はそれぞれだが、表現者として想いは一緒だ▼後は、受け取る側がどう思い、どう考えるかだ。



和気あいあい 楽しい交流会となりました

【後継者対策部長
・西澤 栄二】
9月27日(土)、後継者対策部・青年部合同の交流会を、川添青年部長が選んでくれた国分寺の「シウマイ酒場」で。



西澤後継者部長

青年・後継者 THE 交流会 4th 初参加3人大盛り上がり ～誕生日ケーキのサプライズも～

創笑商店で行ないました。参加メンバーは前回を上回り、総勢13人。初参加の藤本さん(対象者)はお子さん連れで参加してくれ、そのお子さんが誕生日だったため、野崎さんがケーキを購入してきてくれて、参加者全員でお祝いしました。久しぶりに人数が集まり、部会だけでは話す時間がなかったメンバーとも楽しい会話が出来、親交も深められたのかなあと感じました。ただただ楽しい交流会でした。こんな感じでメンバーが増えていってくださる嬉しいです。

現在、土建で何かしらの役員をしてきている人は、後継者をきっかけに何人か出てきてくれて、後継者・青年部としての役目を果たせているのかなあ、と個人的にはホッとしています。



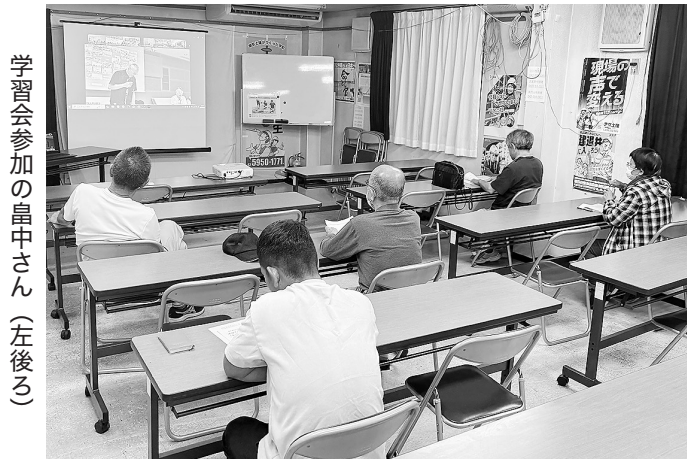
「原発にさようなら」全国から 4500 人の参加者

さようなら原発全国集会に参加して



南雲さん

【国③分会・南雲 和彦】
9月23日(火・祝)に、代々木公園B地区で行なわれた「さようなら原発全国集会」に支部から4人で参加してきました。会場には約4500人も人が集まり、原発に頼らない未来を願う思いを共有できたことに、強い力を感じました。スピーチでは、福島事故を忘れないという言葉や、再生可能エネルギーへ



学習会参加の畠中さん(左後ろ)

すべてのアスベスト被災者認定で 安心安全な建設業界を



畠中さん

【前原分会・畠中 隆行】
私がアスベストの事を知ったのは、東京土建に加入した20年以上前のことだったと思います。当時は、聞いた事はあるけれど、今は使われていないので平気ですよ？という、どこか他人事の様な認識でした。この認識が変わったのはメディアが取りあ

の転換を求める声が印象的でした。一人ひとりが真剣に耳を傾けていて、会場全体に「この問題を次の世代に押し付けてはいけない」という空気が広がっていたように思います。4500人の声は決して

小さなものではないはずです。これから関心を持ち続け、自分に出来ることを探したいと思っています。

げ、TVで裁判所に向かう様子が映り、東京土建の旗や原告の中に組合員の方を見た時でした。あれから17年経ち、ようやく解決に向け動き始めましたが、時間がかかり過ぎていると思います。当時の原告の中で亡くなっている方もおり、亡くなった方、ご家族のみなさんは悔しい思いをしていると思います。弁護士の方も言っていますが、やっとスタートラインにたちました。まだ屋外作業をしていた方は認定されていません。すべての被災者が認定され、和解し、安心、安全な建設業界になっていくことを願っています。

『担い手3法』活かすのは仲間のナマの声

～適正賃金で建設産業まもろう～
【国交省駆け込みホットライン】
0570-018-240

賃金・単価の引き上げ交渉を行なっている仲間のうち、実際に引き上げを勝ち取っている人は全体の6、7割にのぼります。また、「担い手3法」については、その内容を知っている仲間のほうが、知らない仲間よりも積極的に交渉を行なう傾向が見られました。当初は「第三次担い手3法を知らない」「交渉をしない」と回答していた仲間が、法改正の内容を知ったことによって、交渉を行ない、実際に賃金引き上げに成功した事例も生まれています。国土交通省は適正な請負代金、労務費確保、価格転嫁、工期設定、下請代金支払を担保するため、ホットラインで建設Gメンの活動を強化しています。

担い手3法が国会で改定

建設業の担い手確保のための法律改正

将来の建設業のため署名100万人以上集め

改正のポイント

1. 処遇改善・賃金の引き上げ
2. 働き方改革・生産性向上
3. 労務費へのしわ寄せ防止

「労務費を半分にしない」と仕事は頼まないよ

反省しています...

建設Gメンが動く！

建設Gメンとは、国交省の職員で工事契約の適正化と従事者の処遇確保を目的に取引状況を監視

こんな発注者に対し国交省が指導・監視

Gメンが私たちの賃金を上げてくれるんですか？

そうじゃない!! 俺たちの「生声(なまごえ)」を組合に集め、Gメンを動かすんだ!

この機会に適正な賃金がみんなに行きわたるよう求めていくことが大事なんだからこそ要求と請求をしてください!

現場の交流 X

現場の声を届けよう



東京都の最低賃金は10月から1,226円

2025年10月3日より、東京都の最低賃金は時間額1,226円に引き上げられます。これを1日8時間労働で計算すると、日給は9,808円となります。現在の賃金設定がこの金額を下回っている場合は、労働法に違反します。あらためてご確認をお願いいたします。

特に建設業においては、他産業と比較して賃金水準が依然として低く、若い世代を中心に他業種へ人材が流出する傾向が続いています。業界の持続的な発展のためにも、最低賃金を下回らない適正な賃金の支払い、そして働く人々が安心して働き続けられる環境整備が今、強く求められています。

私たち一人ひとりが声を上げることで、現場で働くすべての人にふさわしい対価が行き渡る社会を実現していきましょう。